

登録コード	A3Y54200	開講年度	2026			
授業科目	山岳環境保全学演習				担当教員	荒瀬 輝夫 他
英文授業名	Practice of Alpine Environment Conservation					小林 元
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 0 2 5 Aカリ					
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身につけている。				山岳環境とその保全に関する専門的知識・技術を身につける。	
	【2025年度以降カリキュラム対象】3.【情報分析・発信力】論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。				山岳フィールドで活動しながら様々な情報を観察・収集・記録し、それを整理・考察して的確に伝える能力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	高山～亜高山帯・山地帯の環境に生息する動植物、登山道・山小屋などの現地調査と観察を通して、山岳環境の保全について学びます。					
(5)授業計画	災害等の影響で、演習林学生宿舍の宿泊利用をできない、または収容人数制限が生じる可能性があり、日程変更または中止となることもありえます。その場合には事前に連絡します。 A：通常開講 ● 1日目【ガイダンス】 実習内容の紹介，グループの役割分担，フィールド調査の準備。 高山植物の生活史と保護，野生動物の生態と保護管理についての講義。 （桂小場宿舎で宿泊） ● 2日目【中央アルプス登山と高山環境でのフィールドワーク】 高山植物、野生動物の調査・観察と記録。登山道の維持管理についての観察。 （西駒山荘で宿泊）。 ● 3日目【フィールドでの学習】 天気図の作成、山小屋をめぐる諸問題について体験・観察。 西駒ステーション演習林の亜高山帯森林での実地踏査。 （桂小場宿舎で宿泊） ● 4日目【フィールドワークの取りまとめと解析】 西駒調査結果の取りまとめ，解析とグループでのディスカッション。 農学部にて解散。 なお、西駒への登山・下山ルートはあらかじめ計画していますが、気象条件などの状況に合わせて直前で変更する可能性があります。 B：オンライン学習を交えた開講（宿泊を伴わない場合） ● 1日目【オンラインによる事前学習】 ガイダンス（実習内容の紹介、グループ分け、フィールド調査の準備など）。山岳環境、高山植物の生活史と保護，野生動物の生態と保護管理についての講義。 ● 2日目【西駒演習林（桂小場～しらべ平）】 地図読みの基礎、林道・登山道の観察、山小屋をめぐる諸問題について体験・観察。西駒ステーション演習林の亜高山帯森林での実地踏査。 ● 3日目【手良沢山演習林】 山地帯～高原の植物、野生動物の調査・観察と記録。里山・高原の維持管理についての観察。 ● 4日目【オンラインによる事後学習】 フィールド調査・観察結果の取りまとめ、文献調査、レポート作成と提出。 ただし、天候・災害等により，実習場所・巡検コース・実習内容が変更になる可能性があります（経ヶ岳山麓、大泉川上流、萱野高原、宮田高原などの代替場所を準備）。 なお、いずれの場合も、授業の振り返りとして、最終回の授業の最後に授業アンケートを実施します。					
(6)自主学習の指針	事前学習用に、地図・資料等を用意します。					
(7)成績評価の基準	最終日にレポートを作成・提出します。演習の課題が十分に達成されていれば「卓越している」、概ね達成されていれば「かなり上にある」、大部分達成されていれば「やや上にある」、基本的な部分が達成されていれば「水準に達している」とします。					
(8)事前事後学習の内容	事前学習： ・e-APLSに掲載された資料をよく学習してください。 ・初心者向けでよいので、登山のノウハウに関する紹介本などを一読することを勧めます。 ・山の樹木や高山植物に関する図鑑・ハンドブック類に親しんでおくことも勧めます。 ・開講時期に向けて体調を整えるとともに、自分の体力を把握するようにしてください。 事後学習： 演習中に説明・予告し、最終日にもe-ALPS上で指示します。					

(9)テストやレポートの予定	最終日にレポートを作成します。
(10)成績評価の方法	4 日間の受講状況および取り組みの態度（40点）とレポートの達成度（60点）の合計100点で総合評価します。基準は以下の通り。 秀：90点以上（授業の達成目標の水準からみて卓越している） 優：80～89点（授業の達成目標の水準よりかなり上にある） 良：70～79点（授業の達成目標の水準よりやや上にある） 可：60～69点（授業の達成目標の水準にある） 不可（D）：50～59点（授業の達成目標の水準よりやや下にある） 不可（E）：49点以下（授業の達成目標の水準よりかなり下にある） なお、やむをえない事情で4日間のうち出席できない日が生じる場合には、配慮を検討しますので、事前に申し出てください。
(11)質問、相談への対応および連絡先	開講の前後には、電話とメールで対応します。 Tel.0265-77-1645（荒瀬） E-mail: tearase(at)shinshu-u.ac.jp（荒瀬） kobaafc(at)shinshu-u.ac.jp（小林）
(12)履修上の注意	本演習は、山岳経験者向けです。 初心者や装備等不十分な学生が参加して山奥で途中棄権すると、スケジュールが大幅に遅れて参加者全員に危険が及びます。受講にあたっては以下のことをよくご確認ください。 1．生命・食品科学、食料生産システム科学、地域協創特別コースの学生： まず、「自然の成り立ちと山の生業演習」（初心者向けで「山岳環境保全学演習」の内容を一部含みます）を受講することを、本演習の参加条件とします。「自然の成り立ちと山の生業演習」を体験したうえで、その翌年以降に（実質的に3年生以上で）「山岳環境保全学演習」の受講をご検討ください。 2．山岳圏森林・環境共生学コースの学生： 3年次以降に受講してください。 （2年次の他の演習林実習科目と重複する内容を含むため。） 3．健脚と山歩きのできる装備が必要 受講者には受講案内を事前に通知しますので、必要な装備等をよく確認し、準備を整えてください。準備が不十分な場合には、危険と判断して参加を認めないことがあります。 4．他大学の学生・院生も参加 本演習は、信州大学農学部だけでなく、他大学の学生や山岳学位プログラム大学院生も受講対象となっています。予めご承知おきください。 なお、実習ガイダンスと履修者数の調整のため、履修登録者が多い場合、例年7月に説明会を開催しています。 上記のように、気象や災害等の事情をかんがみて、実習が変更・中止になる可能性もあります。これらの情報は履修登録者向けのメール、e-ALPSのアナウンスで事前に周知しますので、連絡をよく確認するようにしてください。
【教科書】	使用しない。
【参考書】	資料を準備する。